

8-4-28 政策・事業評価専門委員会

1. 主な活動の記録

(1) 活動目標

当専門委員会は、主に道路系・河川系の計画系業務に関連する政策や事業評価に関する内容を取扱うものとし、セミナー等の企画・開催、各種政策の最新動向や事業評価制度、インフラ防災面での評価手法等に関する調査・研究を通じて、協会員や委員の実務的技術習得と技術水準の向上を目的とする。

(2) 専門委員会の開催

- a) 専門委員会の開催回数:5回(WGは適宜開催)
- b) 3つのWGにより活動

(3) セミナーWG活動

河川、道路、港湾分野を中心に事業評価に関わる最新動向を収集・整理し本委員会の場での情報提供とセミナーの企画を検討したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響等の問題もあり、今年度のセミナー開催は見送った。

しかし、他セミナー等の開催方法に関する情報収集を行い、次回セミナー開催の参考とするために整理した。

a) 来年度のセミナー開催に向けた企画案

- ① 話題性のあるテーマ設定に配慮
- ② 講演者は複数名体制で。ある程度、ネームバリューのある講演者の方が望ましい
- ③ 各講演者の講演内容の関係性に留意
- ④ セミナーの開催方法(3密を回避した開催方法)は工夫が必要

b) 具体的なテーマ案

まちづくりや都市交通政策に以下のテーマを関連付けた内容を検討する。

- ① インフラ分野におけるDX、デジタル化
- ② 新たな生活様式(ニューノーマル)まちづくり、都市交通政策
- ③ 「流域治水プロジェクト」(防災・減災、国土強靱化)等々

c) 開催方法

- ① 当委員会メンバーの知見を広げることを目

的とした勉強会形式(建コン会議室、20~30人程度の少人数開催)など(例年のような100人規模のセミナー開催はリスクあり)。

(4) 政策評価WG活動

令和2年度は、過年度に引き続き、自動運転やMaaSをテーマとした国内における取り組みや導入事例などを調査し、とりまとめ内容を委員会内で共有した。また、自動運転社会実験の現地視察を1月に企画したが、コロナによる緊急事態宣言により中止とした。

(5) 事業評価制度WG活動

今年度は事業評価制度や整備効果に関する動向把握として、治水経済調査マニュアル案の改定内容やその背景、各地整の事業評価監視委員会の開催動向、整備効果の内容に関する動向調査などを中心に活動し、結果をとりまとめた。

- a) 各種マニュアル調査と勉強会の企画
- b) 事業評価制度に関する動向把握
- c) 整備効果に関わる動向調査

2. 次年度の活動について

セミナーWGは、政策・事業評価等に関する最新情報・話題等を基に、道路分野、河川・港湾分野を中心としたセミナーの企画・開催を行う。

また、それら分野に係る政策・事業評価に関する最新の話題・トピック等の情報を幅広く収集し、委員会場で共有する。

なお、来年度はセミナー早期開催に向けて活動していく。

政策評価WGでは、「①AI」、「②MaaS」、「③自動運転」をテーマに詳しい情報や最新動向、課題等の調査を実施すると共に、乗り合い送迎サービスなど、民間の取り組みがスピードアップしている面があるため、視察対象としても広く情報収集し、積極的な視察を実施していく。

事業評価WGでは、事業評価制度の動向や事業評価関連マニュアルに関する調査、全国各地整の事業評価監視委員会の動向、整備効果の動向、それらに関連する勉強会の開催等を実施する。

(政策・事業評価専門委員会委員長 篠崎 毅)